

愛知県畜産総合センターだより

(平成30年1月)

平成29年には、TPP11協定が大筋合意し、EUとのEPAが交渉妥結になるなど今後の酪農情勢はより国際化が進むこととなります。また本年4月には新たな生産流通制度に移行していくことになり、大きな変化を迎える年となります。これまで以上に牛群検定や牛群改良により、経営体質を一層強化していく必要があるのではないのでしょうか。

【種牛譲渡】

今年度も応援価格で13頭(2月予定4頭含む)供給することができました。初妊牛・育成牛価格の高止まりが続いています。抽選となりますが、今後もご活用願います。

【輸入血統】

北米から優秀な血統の受精卵を導入してできた産子を供卵牛として活用し、その娘牛・孫牛等を供給しています。今年度、新たに出生した受精卵産子をお知らせします。

- ・アイチ リザ モーグル クレオパトラ ET (申請中) H29.11.10 生

母: EDG ルビー ウィ リザ ET × 父: マウントフイルド SSI DCY モーグル ET

母は乳量と乳器の改良に期待でき、父は決定得点・乳器の改良に期待できます。

- ・アイチ エンシユア ジェダイ ルクソール ET (申請中) H29.12.20 生

母: シルバーリッジ V トアマン エンシュア × 父: S-S-I モントロス ジェダイ ET

母は「リトメイファミリー」で母系も優れ、特に体型改良に期待でき、父は乳量の改良に期待できます。

少しでも早く娘牛を供給できるよう、育成管理していきます。

【飼料作物】

平成29年度の飼料作物の収穫状況です。これまでと同じくトウモロコシ・ソルゴーを5ha作付し、細断型ロールベールサイレージ(R.B.S)(300kg/個)を797個、イタリアンライグラスを5ha作付し、大型R.B.S(600kg/個)318個でした。台風の影響もあり、細断型R.B.Sは昨年比200個以上も減収であったため、来年度は播種時期や除草剤の選定を再検討します。

【鳥獣害対策】

野生鳥獣については、畜舎、飼料畑周辺に出没し、飼料の盗食や作物の被害のような直接的な被害だけでなく、家畜に重大な疾病をもたらす危険が大きく、徹底した捕獲対策が重要です。センター酪農課では平成28年度に新たに5名が鳥獣捕獲許可を取得し、平成29年12月末現在、くくりわな6か所、捕獲檻1基(現在新規に1基作成中)を使って、平成29年4月以降イノシシ18頭、シカ1頭、タヌキ2頭を捕獲・処分しました。



くくりわなにかかったイノシシ